

本日ここに、長野県松本蟻ヶ崎高等学校創立一二〇周年記念式典が開催されますことに、まずもって心よりお慶びを申し上げます。そして、一二〇年の歴史を累々と築いて来られた関係者の皆様がたのご労苦に対し、心より敬意と感謝の意を申し述べたいと存じます。

長野県松本蟻ヶ崎高等学校は明治三十四年、「松本高等女学校」として開校いたしました。殖産興業・富国強兵という明治の国家施策の真只中であつて、その屋台骨を背負うべき人材の育成が急がれた時期でありました。校訓「温良貞淑」は、表面的な意味合いにとどまらず、深い教育的な思いが潜んでおり、開校当時の高い精神性が今に引き継がれているものと考えられます。

その後、戦後の学制改革により昭和二十三年に長野県松本蟻ヶ崎高等学校となり、翌二十四年には松本第二高等女学校を前身とする長野県松本真澄高等学校と統合されました。

創立以来、七十有余年に渡り県内女子教育の中心として発展してきた蟻ヶ崎高等学校は、戦後の民主主義による教育政策の元で、昭和五十年から男女共学となりました。自由・平等・博愛そして自主・自立・自存の精神を涵養すること、より文化的で暮らしやすい社会の形成者として、希望と未来のある世界の構築に実践的に参画することのできる個性豊かな人材を育成することを教育方針とし、時代の要請に応えつつ、有為な人材を輩出しながら、現在に至っています。

さて、長野県教育委員会は、高校での学びを、受動的に知識を蓄える従来の学びから、主体的に人生を切り拓くための学び、能動的な活動の過程でさらに理解が深まるような「探究的な学び」への改革を様々な方策で進めています。

その改革の中にあつて、松本蟻ヶ崎高等学校の「総合的な探究の時間」における「キャリア学習」「地域学習」「平和学習」「SDGs学習」の取組は、県下の先進的な取組ともいえ、探究的な学びを推進する上で注目をされています。また、教科での学習だけでなく、文化・芸術活動をも大切に行っている校風は、生徒の主体的・能動的な態度を醸成するものであると考えます。

こうした取組や校風は、代々の生徒の皆さんのたゆまぬ努力、その熱意と期待にこたえてこられた歴代教職員の方々のご指導、そして、保護者や同窓会・地域の皆様がたの物心両面にわたる多大なる御支援の賜物であると、心より深く感謝と敬意を表します。

結びに、松本蟻ヶ崎高等学校が一二〇年の輝かしい歴史と伝統を継承しつつ、地域から必要とされる学校づくりが末永く続けられていきますことを、心からご期待申し上げます。お祝いのごことばといたします。本日はまことにおめでとございます。